



# 定住外国人子ども奨学金 News Letter

※子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更していません。

## 神戸まつりに参加しました！

夏休み目の7月19日(日)に「第39回 神戸まつり」が開催されました。新型インフルエンザの影響によって当初予定されていた5月から延期となり、その騒ぎも治まりきらない中での開催となりましたが、天気にも恵まれ、大勢の方が神戸を満喫されていました。

私たち奨学金実行委員会は、模擬店出店というかたちで参加しました。7月という季節も考えて、アイスパイン、ベトナム風ココナッツアイス、マッコリなどを販売しました。ベトナム風ココナッツアイスは、ベトナム料理店を営まれているTさんに製作指導をして頂いた、濃厚な味わいのココナッツアイスです。照りつける太陽と人々の熱気のおかげで、どれも非常に好評でした。

奨学生のみなさん、神戸大学震災救援隊のみなさんがお手伝いに来てくれたことや、ベトナムにルーツを持つAさんのアドバイスなどもあり、最後には無事完売させることができました、それだけ多くの方に本場の味わいを楽しんでいただけたのではないかと思います。

また会場では、多国籍料理の模擬店が軒を連ね、煌びやかなサンバが通りを盛り上げ、ジャズやバンド演奏がなされるなど、様々な文化が入り混じり、華やかで活気あふれる空間が出来上がっていました。たとえ互いの存在は違っても、その違いを超えて互いを理解し、認め合う。違いを尊重しながらも、共同体感覚を高めてゆける。まさに、神戸の魅力を全て凝集したかのような一日でした。

今年度はこの他にも「灘チャレンジ(6/7)」「丸五アジア横町ナイト屋台(8/21)」に模擬店出店しました。灘チャレンジでは韓国風焼鳥などを販売しました。韓国風焼鳥は、コチジャンベースのたれに漬込んだ鶏肉の炭焼きで、良い香りのせいか、たくさんの方が行列して買ってくださいました。奨学生のみなさんのお手伝いもあり、成功に終わりました。

丸五アジアナイト屋台ではソーメンチャンプルやフランクフルトなどを販売し、子どもから大人までいろいろな人が食べていってくださいました。“ナイト屋台”というだけあって、マッコリの売れ行きが良かったのが印象的でした。

これらの出店で得られた収益金は、奨学金として役立てられます。今後も、その目的はもちろんのこと、私たちの活動を一人でも多くの方に知っていただけるよう、積極的に参加していきたいと思っております。

(奨学金ボランティア 本田実紀子)

**第1期奨学生のみなさんには各々のルーツについて、  
第2期奨学生のみなさんには新しい高校生活について作文を書いてもらいました**

**〇さん(2期生)**

4月から全く新しい環境になり、高校生活が始まりました。わくわくしながら待ち望んでいました。今まで色々ありましたが、今の私は嬉しい気持ち、悲しい気持ち、その他いろんな気持ちでいっぱいです。

中学時代のあの懐かしい校歌を思い出すと、今でもすぐ聞こえてくるようです。休憩時間、クラスメートと廊下でふざけたり騒いだりしたことがありありと目に浮かんできます。そんなことを思い起こして、本当に悲しくて寂しい気持ちになります。あっという間に青春の最初の関門を乗り越えました。過去のことを振り返り、将来を展望します。中学校3年生の時、私はよい先生に恵まれ、又よい友達にも恵まれて、いろいろな困難を切り抜けられました。今までに味わったことのない苦労がありました。これからの高校生活に不安を感じます。

高校1年から勉強がますます難しくなり、プレッシャーも今まで以上にかかりますが、もっと多彩な学校生活にしたいと夢がふくらんでいます。人生の流れの中で、私は一隻の小船みたいに、波に呑み込まれないために、自分自身を充実させることが大切です。ですから、今私にできることは、着実に一步一步前に進むことです。信念を持って自分を支えています。そうすることによって、雨が上がったなら色とりどりの虹が見えます。雪が解けたら、日差しが見えます。幸せな彼方に到着できます。

高校1年に入学したとき、新しいクラスメートを前にして、私はおじけづいてしまいました。心を開いて友達を作ればいいのかどうか、迷っていました。中学校のときに、失敗した経験があったから、友達を作ることに對して、怖い気がしていました。しかしながら、先輩たちの話によれば、高校では本当の友だちが作れるそうです。昔のことなど忘れて、人間はそれぞれ違うものだと思ってみたくて思いました。高校生ですから、落ち着いてもの事を考えることができるようになりたいと思います。

高校に入って初めての夏休み。母の友だちの家に遊びに行くことになりました。名古屋のような遠いところに一人で行くのは初めてのことです。胸をわくわくしながら、新幹線に乗りました。ある時、母があれこれと繰り返し言い聞かせてくれたことを思い出して、ものすごく暖かく感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。新幹線の中では、みんなが忙しく自分のものを片付けたりしていますが、誰も彼もがそれぞれ自分の目的地に向かっていきます。新幹線がゆっくりと動き出しました。母の姿が小さくなっていくにつれて、何の理由もなしに、母が見えなくなるまで、悲しい気持ちがわいてきました。2時間ぐらいの長旅を経て、やっと名古屋に到着しました。目の前に聳え立つ高層ビルにびっくりしました。母の友達は車で駅まで迎えに来てくれました。晩御飯の後、母の友達が私を連れて、郊外に出ました。ちょうど9時頃、空には少女の目のように輝いている星がたくさんありました。私はうっとりしてしまいました。丘の上に座って、虫たちの鳴き声を聞きながら、数え切れないほどの星がある空を見上げました。今ここに私一人しかいないように、別世界の空間に来たような感じがします。ここには紛争も、戦争も、競争もありません。こんな世界があれば、どんなに完璧でしょう。私はこの時間を止めてほしい、ずっとこの平和な世界に浸っていたいと思います。

夏休みが終わり、新学期が始まりました。夏休みの間に起きた出来事は昨日のこのように記憶に残っています。今までの中で、今年の夏休みは一番素晴らしい思い出になりました。

## Rさん(2期生)

高校に入学して3ヶ月が経ち、誰でも毎年楽しみにしている夏休みを迎えることになりました。

僕はサッカー部に入っていて、毎日と言ってもいいぐらい練習がありました。毎日サッカー出来るのは楽しいですが、夏休みの宿題のことも忘れずに勉強しなきゃいけないなあと思いました。夏休みの宿題が多すぎて、夏休みの最後のほうで焦ってやったりしました。

でも一番の思い出はKFC(神戸定住外国人支援センター)で知り合って友達になったKFCのメンバーと一緒に花火をしたことです。自分も少し止まって考えてみると、「もしKFCに来てなかったらこんな友達に出会えてなかったなあ」と思いました。やっぱり出会いを大切にしないといけないと思いました。

夏休みが終わり、新学期が始まる。課題考査は嫌だけど、がんばる気持ちを大切にして、がんばっていきたくと思いました。

7月16日(木)に開催したKFCで学習している小・中学生と支援者を対象にした「先輩たちに聞いてみよう！～高校ってどんなところ？受験勉強ってどうすればいいの？」で、Rさんには「高校での勉強や高校生活について」、また「いつ頃から受験勉強を始めたか」などを話してもらいました。質問にはしっかりと答えてくれ、KFCの学習者や卒業した高校生たちと仲良くなり、参加者も本人も得るものの多い場となりました。

## Mさん(2期生)

私は高校生になってから勉強は難しくなりました。特に国語の授業が苦手です。でもあきらめないでがんばっています。友だちも少し増えてきたから毎日楽しく学校に行っています。

学校で一番楽しかったことは、文化祭でした。私の学年は舞台部門優秀賞をとることができました。

夏休みには補習のためほとんど毎日学校に行っていました。暑い中で学校に行くのはめんどくさかったけどがんばって行っていました。

それと淡路島と広島に行きました。淡路島にはバーベキューを食べました。とてもおいしかったです。海にも入りました。楽しかったです。広島には在日外国人高校生の会に行きました。ペルー、ブラジル、オーストラリア、中国、韓国などの国の人がいました。いろんな国の人がいてとてもうれしかったです。広島の旅行はいい思い出になったので、また行きたいと思います。

## Kさん(1期生)

私にとって「母国」とは、一言では表しにくいものです。

日本は経済的な面や安全的な面でもペルーと比べて優れているところがたくさんあって、住みやすい場所だと思いますし、私は好きです。でもペルーは育ったところですし、いろんないい思い出も悪い思い出もたくさんあります。それだけではなく、大好きな大切な人達もたくさんいます。今は生活面では日本の方が充実してますし、日本で学びたいこともあります。なのでペルーに帰って住もうとは思わないですが、暇さえあれば遊びに帰りたいです。そのためには母国語を忘れないことはとても大事だと思います。ペルー人とコミュニケーション取るために必要だと思います。でもそれだけ

ではなく、私にとって、10才頃までそこで過ごしたというのに、母国語がちゃんとしゃべれないのはとても恥ずかしいです。なので、いつも少しでも上達したいと思います。

私が教えている母国語教室では日本生まれの子どもがほとんどです。なので母国語がわからないのは若干しょうがないかなあと思いますけど、母国語がしゃべれて損するようなことはないと思います。得することばかりです。何よりも自分がしゃべれたり、わかったりすることによって、自分に自信がつくと思います。よっぽどひどいことがない限り、誰にとっても母国というのは大切で忘れられないところであると思います。

### Vさん(1期生)

日本に来る日から、私の生活はすごく困っていました。なんで困ると言う、そのとき私は日本語がまったくわからなかったからです。みんなの話が理解できないし、自分の考えを伝えたい時は難しくとてもつらいです。

学校ではみんなと同じ行動もできない、いつも別の教室で勉強していました。学校に行きたくない時もあったけど、学校に行かなかったら日本語を勉強できないと日本語をしゃべる機会もないことで私がかんがって学校に行きました。毎日いっしょうけんめい日本語を勉強しました。だんだん普段のことばは話せるし、みんなの話が少しずつわかってきました

小・中学校の時は本当に大変だったけど高校に入ってから友達ができて、みんないっしょに勉強したり、遊んだりして楽しい学校を過ごしています。すごくよかったです。

### Yさん(1期生)

私の母国は韓国です。

韓国で生まれ、韓国の自然に囲まれた田舎で5年間育てられました。日本に移って今年で11年経ちますが、韓国にいるよりも日本にいる方が長いのに、やっぱり生まれ育った韓国の方が私は大好きです。韓国の自然や文化、人々の優しさを知っているからです。

今は日本に韓国より長く住んでいて、韓国にもあまり帰れていませんが、でもやっぱり変わらず韓国が好きだし、帰りたいと思います。久しぶりに韓国に帰った時は、すごく懐かしいし韓国語が耳に入ってくるのがとても心地いいです。

私にとって韓国は「支え」です。何かあった時に支えになってくれる気がします。私は2つの国の文化を合わせ持っているんだと思うと誇りに思えます。今思い起こすと韓国で育てられた5年間のおかげで今の私があるのだと思います。韓国でのびのびと育てられたから今の生活を楽しむことができます。これからも母国に誇りを持って頑張りたいです。

## ご協力・ご寄付ありがとうございます！ (順不同、2009年5月22日～2009年9月14日現在)

曹弘利、石塚良子、志岐文崇・千津子、たなかまみ+ngatu2 募金箱、神戸 YWCA 募金箱、福岡町役場募金箱、野崎隆一・瑠美、乾美紀、柏木朱美、湯口恵、長沼幸正、加藤眞澄、プラス ONE ネット、小林尚子、(特)リーフグリーン募金箱、FM わいわい募金箱、フェアトレードショップみみずく舎募金箱、ベトナム料理メコン募金箱、インド料理チャルテチャルテ募金箱、中村一成、大橋和美、田中聡一郎、児玉知子、ひめじ発世界、宇野祐子、松田陽子、加藤昌彦、山本晃輔、志岐良子



## 今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます！

(順不同、2009年5月22日～2009年9月3日現在)  
FMわいわい、NGO ベトナム inKOBÉ、(特)リーフグリーン、フェアトレードショップみみずく舎、神戸合同法律事務所、尼崎市国際交流協会、南あわじ市国際交流協会、高砂市国際交流協会、フェアトレードショップ Liaison、神戸 YWCA、ベトナム料理メコン、インド料理チャルテ・チャルテ、お仏壇の浜屋、タン・カフェ、韓国商工会議所  
**今後も引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております！**  
皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

## ～今後の予定～

2010年2月7日(日)に奨学金のためのチャリティコンサートを神戸新聞松方ホールで開催します。ピアニストの山川亜紀さんを軸としたピアノと金管五重奏、声楽のクラシックコンサートです。詳細は決定次第お知らせいたします。皆様のご来場をお待ちいたしております。

## 奨学資金の寄付を受付中です

不況の影響により、外国にルーツを持つ多くの家庭は大変厳しい経済状況に追い込まれています。外国にルーツを持つ子どもの高校進学を支えるために寄せられた募金や寄付は、実行委員会を通じて役立てられます。皆様のご協力をお願いいたします。

通信欄に「定住外国人子ども奨学金」とご明記の上、  
郵便振替口座 00990-4-18945 神戸定住外国人支援センターまでお願いいたします。

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会  
〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502  
NPO 法人 神戸定住外国人支援センター(KFC) 気付  
TEL078-612-2402 FAX078-612-3052  
E-mail kfc@social-b.net Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>

